

あ

あ●五十音図「あ行」の第一の音。●母音の一。口な 發する母音。母「安」の草體。 厳く開き、舌の後部を少しく高め、聲帶を振動させて

あ[吐](名) あせ。(古語) 「子供の聲。笑ひ聲。

あ[阿](名) ●なか(丘陵)。●くま(曲隅)。●おもれあ[啞](名) ●なか(丘陵)。●くま(曲隅)。●おもれ 人を呼ぶ時の冠詞。の佛弟子の名。「一難」。のアフ ること。四きし(岸)。四むれ(棟)。●のき(營)。四 リカの略称。「南一戦争」。

あ[彼](代)かれ。(古語)【地】アジャの略。 あ[亞](名・接頭) ●つぎ。次位。「一相」。●たぐひ。 「−流」。❷【化】化合物の成分の割合の少いこと。❷

ああ[如彼](副) あのやうに。 あ[唯](感)、返事をする時の壁。

ああ [嗚呼・嗟・噫] (感) ロものに感じて發する ある[極照](感)であくあく」と誰む時は「笑ふ路」 の意)●鳥の聲。●鳥の聲。●小兒の聲。 限る。母「嗚呼」は廚く数息・賞美の場合に用ひる。 壁。●呼びかける壁。●「嗟」「噫」は歎息の場合に

アーガス-カメラ [Argus-camera] (名) 豆寫 アーヴィング[Washington Irving](名)[人] の著がある。(一代五九) 「真器。アーグスーカメラ。 米国の文學者。「スケッチ・ブック」「アルハンプラ」等

> アーキテクチュア [Architecture] (名) 建築 アーキオロジー [Archeology] (名) 考古學。 學。建築樣式。

アーク [Arc] (名) 弧。 ―とう [一燈] (名) こ アーギュメント [Argument] (名) 議論。 う(弧燈)。この燈では、放電による發光部分が弧狀 であるから、この名がある。炭素棒に電流を通じて、 とう(弧燈)。 ー・ライト [Arc-light] (名) こと 太陽のやうな强烈な白色光を放たせる燈。

アークティック・オーシャン [Arctic Ocean (名) 【地】北氷洋。北極海。北極圏内(北緯六六度三

アークライト [Sir Richard Arkwright] (名)【人】イギリス人。紡績機械發明家。 製絲業者。 「古主義。

アーケイック[Archaic](英、形) 古風稚拙な趣 アーケイズム [Archaism] (名) 古語。古體。擬 のあるさま。

アーケード [Arcade 恐がある。 ―-ストー 設けた通路で、通路の上 (名)【建】大建築の内部に (名) アーケードの兩側 [Arcade-store] には硝子張りやその他の

アース [Earth] (名) ●土地。●ラヂオの接地。接 アーサーおうでんせつ……[一王傳說](名) キング」に敍述せられてゐる。 しては、ロードーテニソンの「アイディルスーオヴーゼー としては、トマス-マロリの「アーサー王の死」、詩と ゲン傳説とともに歐洲三大傳説の一。この物語は、 及び騎士の物語。シャールマン傳說及びニーベルン ロバートーヴェースのブルータス物語に歌はれ、散文 【傳】(Arthurian legend) 英國の傳說で、アーサー王 に並ぶ商店。 地線。

アーチー [Archy] (名) の。 供。(せりもち)迫持。 【単】飛行機を射撃する大砲。 同一の目的に使用したも 法で曲線形に築き、桁材と コンクリート等を特殊の方 上の技法の一。石材・煉瓦・ で包んだ緑門。●【建】建築

アーティフィシャル [Artificial] (英、形) 人工 ficial Ivory-type] (名) 人造泉牙印畫。—-ラ 的。技巧的。―-アイヴォリー-タイプ[Arti-イト-フォトグラフィー [Artificial-light-

アート [Art] (名) 藝術。技術。 photography](名)人造光線寫真衡。

アート-フォア-ライフ[Art for life] (句) アート-フォア-アート[Art for art] (句) 数 アート-ディレクター [Art-director] (名) 映 アート-タイプ[Arto-type](名) 精巧なコロタイ 本をこの主義の上に置いた。 る説。藝術の爲の藝術。(人生の爲の藝術の對) ーザンが、初めて称へた藝術の絶對的獨立を主張す **衡至上主義。十九世紀に、フランスのヴィクトル-ク** た映畫字幕。『ブの一種。無光澤な寫真印刷の一種。 質のものな塗り、平滑にした洋紙で、光澤があり、多 生の爲の藝術。文藝上の自然主義や人道主義は、 ③の舞臺·衣裳・小道具・装飾等美術に関する監督。 根人

CF

アーノルド[Matthew Arnold] (名) 【人】ィギ シス」「カルチュア・エンド・アナキー」「文學とドグマ」 リスの批評家・詩人°トマス-アーノルドの子°「ター く寫眞版の印刷に用ひる。

アーベント [獨 Abend] (名) ●夕方。●特殊のリスの教育家・歴史家。「羅馬史」の著がある。(|元元| アーノルド [Thomas Arnold] (名) 【人】ィギ 等の著がある。(一八八八)

アーチ [Arch](名) 〇石又は煉式・コンクリートな

どか材料として弧形に造った眼鏡橋。●杉・檜等の葉

アーマチュア[Armature] (名) 【機】 愛電機や電 アーミスティス-デー[Armistice Day](名 目的で夕方から開く演奏育・講演會・映選會等。 于といひ、電動機には電動子といふ。 動機の中にあって回轉する部分で、發電機には發電 世界大戦休戦記念日である十一月十一日。

ああむじょう いゅい [噫無情](名)【文】十九世紀

アーティスト [Artist] (名) 藝術家。

レーミゼラーブル (Les Miserables)の飜譯名。 ジャ

アート-タイトル [Art-title] (名) 意匠を凝らし アームストロング [William George Arm

で、アームストロング砲は、同社製造の後接・施條の けられ、貴族に列せられた。(一か18) ーーかいしゃ 大學からLL・Dの學位を受け、又バロン(男爵)を授 力機械・大砲・蒸氣起電機等な 發明し、ケン ブリッヂ strong](名)【人】イギリスの工學技師・發明家。水 によって甦へる經過を描寫した小説。一八六二年刊。 て、社會の苛酷な迫害によってれぢけた魂が、清い愛 ン-ヴァルジャンといふ 不運な男の 一生な 中 心 とし のフランス に於ける 小説家 ヴィクトル・ユー ゴーの

; [一會社](名) イギリスの軍艦·軍器製造所

アール [Are] (名) メートル法の地積の單位。一〇 ああら(感)あら。あれ。 アーメン [Amen] (名) 【宗】キリスト教で、新辟の アーム-チェア [Arm-chair] (名) 肘掛椅子。安 ○平方メートルで、我が三○坪二合五勺に當る。 後に稱へる語。もと、ヘプライ語で、「誠實」「甘諾」の 大砲である。

アール-ヌーヴォー [佛 Art Nouveau] (名) 様式。色彩や線は輕淡を主とし、特に自由な曲線を 【美】一九〇〇年頃、フラシスに流行した美術上の一 用ひることを特色とする。

あい [愛] (名) のなさけをかけること。かはゆがる ■【宗】キリスト数で、神が人類に幸福を與へること。 こと。 ●男女の思ひあふこと。 戀愛。ラヴ(Iove)。

あい [哀] (名) のかなしみ。日あはれむこと。 他の人類を兄弟と思ってかはゆがること。

あい。為[監](名) の[植]要(注)科あい。[鮎](名) (助)「あゆ」の訛。 あ[藍](名)●【植】蓼(ピ)科の一年生草本。葉

⊖(あいいろ)(藍色)の略。青と紺 がら染料をとる。O藍草から製した天然染料。 がの変から染料をとる。O藍草から製した天然染料。

で機様を指りつけた布帛。あやすり。 1・で機様を指りつけた布帛。あやすり。 1・で機様を指りつけた布帛。あいまり。 1・で機様を指りつけた布帛。あいまり。 1・たび[監楽](名) 藍で染めた色。 1・たび[監楽](名) 藍で光があまり。 1・たび[監楽](名) 藍で光があり。 1・たび[監楽](名) 藍は水に「種」であいまり。 1・たび[監査](名) 藍は水に「種」であいまり。 1・大び[監査](名) 藍してアルカリ性液に溶解された。 1・大び[監査](名) 藍の葉を解解させた。のを固めた染料。 1・一次で[監査](名) 藍の葉を解解させた。のを固めた染料。 1・一次で[監査](名) 変の変を解解させた。のを固めた染料。 1・一次で[監査](名) 変の変を開発させた。の変類に浮かぶ。 1・みどろ(名) のが、 1・みるちゃ[監海 松茶](名) 萌漱色の歌とて果ずんだ染色。 1・みどろ(名) 前漱色の歌とて果ずんだ染色。 1・みどろ(名) 前漱色の歌とて果ずんだ染色。 1・みどろ(名) 前漱色の歌とて果ずんだ染色。 1・みるちゃ 1 にかましまが表しまります。 1 にかましまり 1 にかましまり。 1 にかましまり 1 にがましまり 1 にかましまり 1 にかましまり

にしたもの。 母古い弦布に苛性ッーダ・鈴など かいっち (會) 迅・隆) (名) あふこと。 對面。 本いっち (相) 包酒の相手。 母(あ) かさら、對面。 おいっち (相) と語の相手。 母(な)

あいまら[相](接頭)の互に。ともどもに。の手紙 互に」(副)ともどもに。――だち[相太刀](名)解大関の中の大位のもの。――たがいーに引き[相關](名)東西の所に共に住むこと。――ぜき[相關](名)東西の所に共に住むこと。――ぜき[相關](名)東西 かつで時の一方のもの。―かた[相方](名) 〇(あいあいがさ)。―かた[相肩](名) 二人で物なに一挺の駕籠に乗ること。―がる[相率](名) ●二人の人が、同じ店で商いをすること。●一つづ互に太刀で斬りあふこと。——だな[相 店](名) の調子をあはすこと。ー・すまり、「相棲合樓」 すち、引、(相槌)(名)の互にうち合はす槌の日話すくり、「相槌)(名)の互にうち合はす槌の日話 ずくり (|っ[相作](名) てっだひ。助手。 借家](名)一つ棟の中に共に借家をすること。 けらい。てつだひ。相手。仲間。——じゃくや 相手の脇に手をさしこむこと。―し[相仕](名) と。―-さし[相差](名) 相撲四十八手の一。互に 凱と、又は煙管筒と煙草入とな、同時に腰にさげるこ [相曲舞](名) 二人で舞ふ曲舞。—-ぬ[相子] 客になったこと。又、その人。一くせまい…… ること。又、その人。●二人以上の客が同時に或家の く[相客](名) ●二人以上の客が宿屋で同室に泊 てきたは「相構へて」(副)必ずの決してのーーきゃ (あいて)。日遊客の相手になる遊女。――かまえー こ、煙草)。一かで[相駕籠](名)二人がいっしょ ーおもい-ぐさo…は。[相思草](名)【植Jたば ふこと。相討。●一人の敵を味力二人で討つこと。 す」 -- うち[相撃・相打](名) ●同時にうちあ の文で、動詞の上に添へて語調を整へる語。「一變ら (名) 襟先の衽(なて)の幅。――ずみ[相任](名) 一 (名) 互に勝負のないこと。――ご [相棊] (名) 技 ━ーおい[相老](名) 夫婦がともに年寄ること。 和 ļ

あい む [間] (名) のあいだ。あはい。すき。ま。の (名) 共に番を務めること。又、その人。當番のなか二人以上共同で出版すること。――ばん [相番]こと。又その車。又共の人。――はん[相版](名) 事と事との間に行ふわざ。●能樂の中入に出る狂言 と。〇雖人。―よめ[相嫁](名)夫の兄弟の妻。 ひま。 --まど [相孫] (名) 共に孫になる關係の と冬との間。一あか 師。曾(あいごま)。母(あいのしゅく)。母春と夏、秋 て戦ふこと。—-よみ[相讀](名) ●ともに誰むこ やり[相槍](名)一人の敵に味方二三人で槍を持っ 婚・嫁雙方の臭姑同志の相對する称。——やど [相 役](名)どうやく(同役)。 --やけ[相舅](名) のないこと。日相共に助け合ふ関係。--やく[相 (名) ●入費を平等に負擔すること。●兩方に優劣 妹の夫。母姉妹のむこの互称。――もち[相持] あふこと。――むて[相響・相婚](名) ●要の姉 ま。ーみたがいよい。[相見互](名) 互に助け もの。--ま-こま[相間小間](名) あいだのい 思ひあふこと。―-ま[相間](名)あひだ。あひ。 の人。四仲間。——[天礼 [相惚](名) 男女の互に (名) ローつの忽籠や畚などをいっしょにかつぐ 相手ー-ぶん [相分](名) お互っこ。——ぼう [相棒] ま。――ぶぎょうま。[相奉行](名)同役の奉行。 すち)。――のり [相乗] (名) 車などにともに乗る 腰] (名) とられ。 -- の-つち[相槌] (名) (あい るのをすりよって背負投げにすること。—-ね[相 に。 -- どり [相取](名) 共謀の詐欺。 --なげ ーともに[相共に](副)いっしょに。ともども く床。―どの[相殿](名) 【神】同じ社殿に二柱 宿] (名) 同じ宿に泊りあふこと。又、その人。 【相投】(名) 相撲の手の一で、相手が投げようとす {※:?::'}[相訪ふ](自動、ハ四) 互にたづれあふ。 以上の神を合祀すること。―とぶろう (あいどの)。—- ひん [相床](名) 一間に並べ敷 [間赤](名) 江戸時代の奥

間に着る洋服の 服・合服](名)春と秋と、即ち冬と夏・夏と冬との中室。 ●京間と田舎間との中間の間。 ——-- 本く [間 物と物となっなぐもの。の歌事のひまに他の事ななめたけるわざ。 ―の一力なぎ [開蝶] (名) ゆまったことやする戦に、一の一力なぎ [開蝶] (名) ゆいしょく [間 宿] (名) 原名解散の立て 堪。―― 間の女。―-の一かき[間垣](名) 庭又は路地など 間にある室。●権現造の神社の拜殿と本殿との間の 合手。--のま[問間](名) ●主な二つの室の中 すこと。―-の-て[間手](名) 明と明との間には さび。●一定の仕事の暇に他の事をなすこと。 に改める間に行ふ能狂言。―のくさび [間楔] 言](名) 〇冬の顔見世と春の二のかはりの間に行ふ言](名) 〇冬の顔見世と春の二のかはりの間に行ふこれ間に 発展できます。 別がない。しかたがない。うちつけである。(古語)し (それに)[間無し](形、一) へだてがない。區 が禮服の打着と下着との間に着た白い小袖。---な・ さむ音曲。調子を合はせて中にはさみ入れるもの。 の-しゅく [間宿](名) 雨宿瞬間の立て場。 (名) ●材と材との間にうちこんで*つなぎとめるく 芝居狂言。●仕手が樂屋にはひって、後の仕手の裝束 のしきりの垣。一一の一かね[問矩](名)折半した おく駒。――じろ[間白](名) 江戸時代に、奥女中 數料。 -- ごま [間 駒] (名) 熱棋で、間のふせぎに [間切] (名) 竹の節と節との間を切って作った ぎ [問着] (名) (あいふく) (問服)。 ―-ぎり み[間紙](名) ものとものとの間にはさむ紙。 女中が打着と下着との間に着た紅色の小袖。 一節切(記がりの類。――ぎん[間銀](名)口錢。手

一本の傘を二人でさすこと。多く男女二人の場合に

アイアン [Iron] (名) (普通にはなまって、「アイロ 出來ないとの說。 働者が増加して賃銀が低下する。故に勢働者は生活 費用として必要な額以上の賃銀な、永久得ることが 經濟組織では、勞働者の賃銀は増加させる望みがな できぬ法則。鍛則。O【經】質銀鐵則。現在の資本主義 ron law](名) ●人間の意思では變更することの の如く、絕對に破るべからざる規律。 -- ロー [I-【社】軍人に對する軍律、又は共産黨員に對する黨律 ン」といふ)。●鐵叉は鐵製品。●西洋ひのし。● いといふラツサールの説。卽ち労働賃銀が上れば労 杖。 ―-ディシプリン [Iron discipline] (名) 髪の 毛む ちぢらせる 小形の鰻。四ゴルフ用の 蛾の

あいいく [愛育] (名)かはゆがって育てること。 あいいしゃは…[合醫者](名)その人をよく診

あいいん。[合印] (名) 護師・書類のひきあはせあいいん。[愛飲] (名) 好んで飲用すること。 におす印。わりいん。あひはん。 察し、適藥を投する醫者。

アイヴォリー [Ivory] (名) 〇泉牙。〇名刺など アイヴァンホー [Ivanhoe](名)【文】イギリスの 生活をするために文藝家などが一人で籠る別天地。 明の醜惡な生活を避け、自己の好む靜寂な詩的美の [Ivory tower](名) ●象牙の塔。●現代物質文 に用ひる象牙色の光澤ある厚い洋紙。――タワー イヴァンホーを主人公としたもの。一八二○年刊。 文豪サー-ウォールター-スコットの歴史小説。騎士ア

アイーエフーティー・ユー「丁下丁・丁」(名) ナショナル」とも称する。 食民主主義を標榜する。その本部がオランダのアム 勞働組合の國際的聯合で、赤色勞働組合に對抗し、社 ステルダムにあるので、「アムステル ダム-インター 略)國際勞働組合聯盟。第二インターナショナル系 【社】(International Federation of Trade Unionの

あい-えん[愛縁](名)【佛)恩愛の縁

あいあーあいこ

あいえんは [合縁] (名) むっぴあふことのでき あいそん 気に哀猿! (名) 悲しい聲で啼く猿。あいそん 気に哀娥! (名) 哀れにやさしいこと。 は如も縁によること。●不思議な縁。 る縁。――きえん[合縁奇縁](名) ●合ふも合

あいおいは[相生](名)いっしょに生の出るこ 更にその結目に通した紐の結び方。 神社の境内の鍵松。高砂の松。―-ぼん[相生盆] 女松とな揺し、根じめに敷柑子を用ひたもの。---と。おないどし。―さし[相生插](名)男松と ーむすび[相生結](名) 普通の女結びの一端を (名) 婚禮の折に用ひる 男島と女島とを並べた盆景。 の-まつ[相生松](名) 兵庫縣加古郡高砂町高砂

あいか「哀歌」(名) 悲しい心持をあらはした歌。あいわれくぎはに[合折釘](名) 直角に曲っ あいーかたは「合方」(名)の芝居のせりふの間にあいーかぎは「合鍵」(名)一つのかぎの外に、その あい-かき 語[合映](名)[建二筒の木叉は石を アイ-オー-ユー [TO U](名) 【商](I owe あらはす商業用の略語。 入れる三味線。●謠の大鼓・小鼓・太鼓・笛の囃子。 こと。又、その物。 接合するに、その端を互に半分づつ缺いて合はせる you の略語) あなたから借用しましたの意。 借用を 「て、兩端の尖った釘。 「錠にあふ他のかき。

あいがんかで[哀願](名)なげきれがふこと。事 あいがんない [愛玩](名) 大切にしてもてあるぶ あい-がも は [間鴨] (名) 【動】野生の異鴨と青首 鶩(なり)とのあひのこ。 情を述べて熱心に願ふこと。 ايكى

あい-ぎこえ *** [相聞] (名) 萬葉集中の歌體の あいき[愛妓](名)かはゆく思ふ藝娼妓。 うしん(相関) 一で、男女・親子・兄弟・夫婦・知己等の相思の歌。さ

あいきゅう [哀泣](名)かなしみ泣くこと。 の。●子持鮎の鹽漬。

あいきょうい。[鰀餓](名) 日島の年を經たも あい・きょう いで [愛郷](名) 生まれ故郷を愛する

あいきょういで「愛敬」(名)の人づきのよいこ 合](名) なみなみのつきあい。普通の交際。--ちゆかぬからいふ。--ずきあい きび 愛敬附 [愛敬商賣](名) 待合。遊郭。愛敬がなくては立 に愛敬を添へるからいふ。―しょうばい こと ー-げ[愛敬毛](名)女の袋や頭髪のおくれ毛。顔 (あいぜんみょうおう)(愛染明王)。―あばた[愛 すること。―あいぜん[愛敬愛染](名) (佛) はゆらしいこと。●俳優が花道で見物の方へ見えな と。あいそのよいこと。世辭のよいこと。●顔のか こと。一しん[愛郷心](名)愛郷の精神。 敬痘痕](名) 愛敬があるやうに見えるあばた。

あいぎん [愛吟] (名) 愛する詩歌を吟すること。 あいきょうり [愛樂] (名) 【佛」愛し好むこと。 あいきょうい。[愛敬](名)(あいきょう)。(古語) あいきょう い [愛嬌](名)(あいきょう)(愛敬)。 又、その詩歌の 魔後、三日目に舅姑に贈る餠。みかのもち(三日餠)。 新編が襟にかける守。一もち「変敬餠」(名)婚 るほくろ。--まもり[愛敬守](名)婚禮の時、 お紅。 --~に [愛敬紅](名) 目尻や頰·耳たぶにつけ grace)手形滿期の後、支排を延期する日數。 恩惠日。 佛の容貌。 --び [愛敬日] (名) 【經】 (Days of 敬があるやうになる。―そう引[愛敬相](名) ずく こではい [愛敬附く](自動、カ四) 愛 ぼくろ[愛敬黑子](名)かはゆく見え

層がはゆらしい。こぼれる程のあいきゃうがある。 あい-ぐすり は [合薬] (名) その人の病に特效あ あいぎん[哀吟](名)悲しい情をうつし表はした あいくちは「合口」(名)のあはせめ。の話のよ くあふ人。●つばのない短刀。匕首。九寸五分。 の口語。一げ[愛くるしげ](名) あいくるし 一い (のがい) (愛くるしい」(形)「あいくるし」 しいこと。又、その程度。 いやうす。―さ[愛くるしさ](名) あいくる

> あいける…[藍氣](名) 藍色を帯びてゐること。 あいぐんじょうやく [三] [愛琿條約](名) 清・箆の間に黒龍江を兩國の國境とすることに就い て、この地で結ばれた條約。 愛琿は滿洲國黑龍江省の都會。咸豐八年(一八五八)

あい-げん[愛眼](名)【佛】佛の慈悲の眼。 あいけん。ほ[合拳](名) ●拳の遊技で二人が同 あいけい [愛敬] (名) 愛し敬ふこと。 じ手を出すこと。●馴れあひ。合意。 --ねずみ [藍氣鼠](名)(あいれずみ)。

あい・ご [愛護](名)かはゆがり保護すること。 あい-こ [変顧](名) 目をかけてやること。 あことのひいかの 引立て

あい・ごうが、[哀號](名)人の死をかなしんで泣 あい-こう き [愛幸](名)かはゆがること。きに あいとうか、「愛好」(名)愛しこのむこと。 あい-ど [愛語](名)【佛】菩薩が衆生に對し、 あいとうか、[監巷](名)せまくるしくきたない きさけぶこと i) みのことばをかけること。又、そのことば。

詩歌。 あい、こく[愛國](名)我が國を受すること。! あい-こく[哀哭](名) 壁を舉げて悲しみ泣くこ アイコノクラズム [Iconoclasm] (名) 偶像破 あい-ことば は [合詞] (名) かれてうちあはせて **を無親して、正確な認識を得ようとすること。●**泮 ある合闘の詞。かれてしめし合せてある暗號語。 れて、六年間の据置郵便貯金をすること。 ―― かじ 信的思想を打破すること。 宗教・道徳上、絕對機威と目されてゐた神や道德信條 壊。●アイコン(像又は偶像)を壊すこと。●哲學・ 兵の救護と一般社會事業に貢獻するを目的とする。 奥村五百子の創設した婦人團體。 暇死者の 遺族・廢 んかい……。65[愛國婦人會](名)明治三十四年、 債を早く返還する目的で、一人一日一錢づつ預け入 精神。加國愛。―-ちょきん [愛國貯金](名)外 しん[愛國心](名)自分の生まれた國土を愛する